

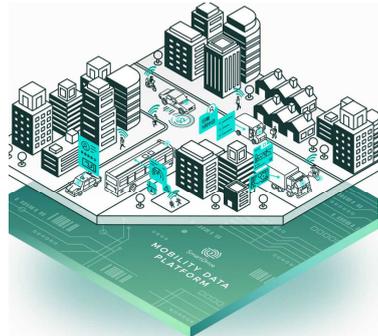
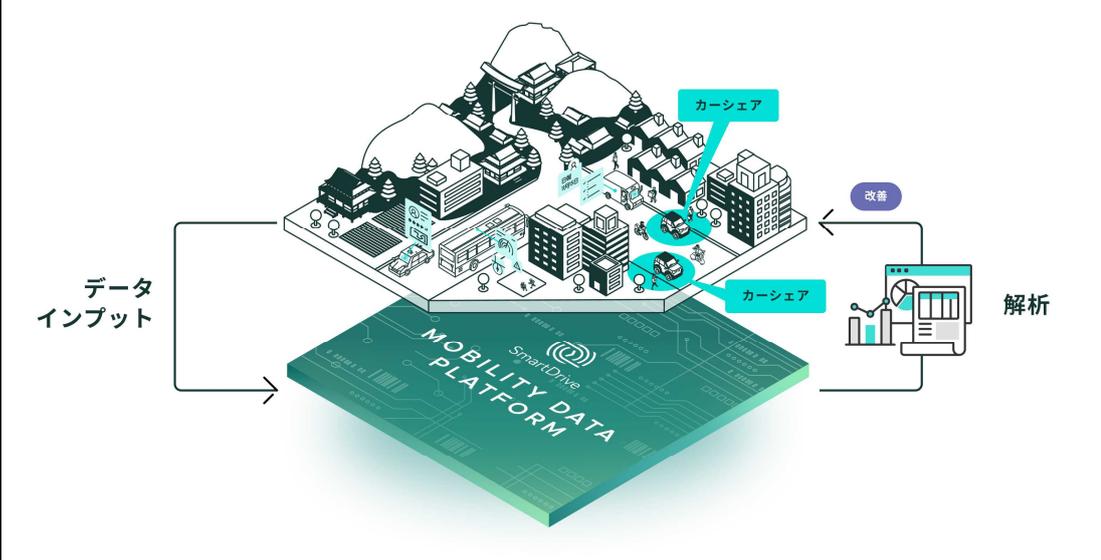
スマートシティの実現に向けた技術提案書

様式1

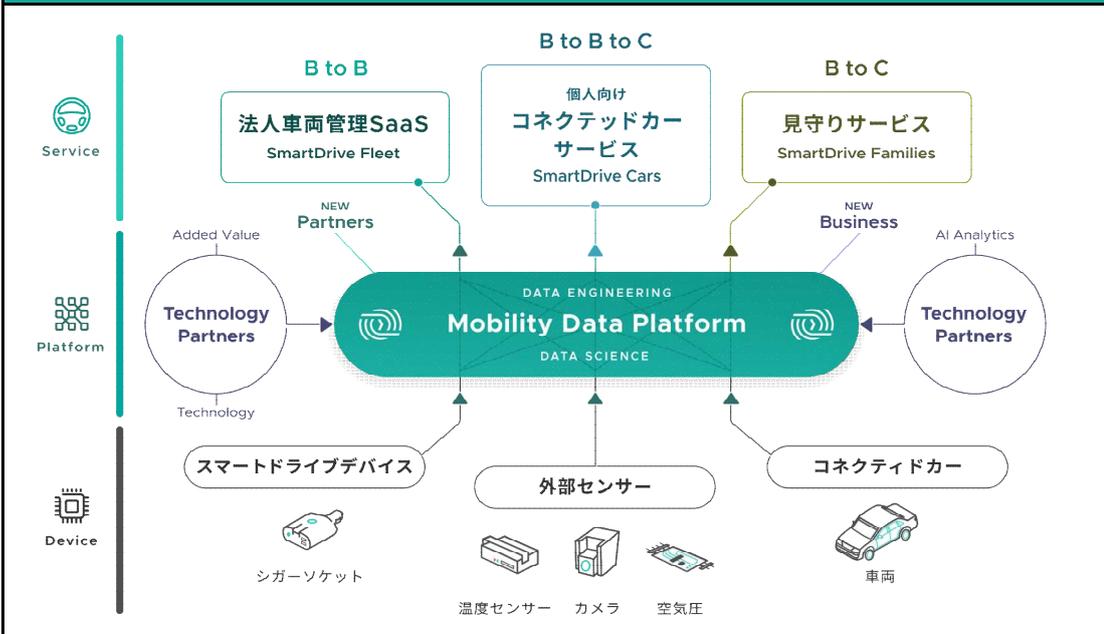
提出年月日: 2020年4月3日

提案団体名: 株式会社スマートドライブ (複数団体による提案も可とします)

○提案内容

<p>(1) 自社の保有するスマートシティの実現に資する技術と実績等 ※スマートシティの実現に資する技術については、別紙の(1)~(7)の技術分野への対応を記載ください</p>	
技術の概要・実績等	技術の分野
<p>シガーソケットに差し込むだけでモビリティデータを取得できる自社開発したIoTデバイスや、他社製品のドライブレコーダー、センサーデバイス、スマートフォンからもモビリティデータを取得することができます。これらのデバイスは後付けで簡単に設置することができるので、既販車から簡単にデータを取ることができます。取得したデータを活用して、B2B、B2B2C、B2C向けのサービスを自社で展開しております。データを取るだけでなく、利用者に対してデータを活用したサービス提供が可能ですので、協力が得やすいという点が特徴です。</p> <p>最近では、三井不動産様と柏の葉で住人の方にB2C向けのサービスをご利用いただいて、収集した走行データを、MaaSやまちづくりのプロジェクトを進めています。また、小田急電鉄様とも沿線沿いにお住まいの方々に対し、走行データを活用した安心・快適なまちづくりのプロジェクトを行っています。 (https://smartdrive.co.jp/news/press/odakyu)</p>	 <p>(3) データ保有 (4) データプラットフォーム</p>
<p>(2) (1)の技術を用いて解決する都市・地域の課題のイメージ ※課題については、別紙の(ア)~(シ)の課題分野への対応を記載ください</p>	
解決する課題のイメージ	課題の分類
<p>スマートシティやMaaSのプロジェクトを推進するにあたって、実際にお住まいの地域に住んでいる方々のデータを取得することなく、仮説や想定だけでプランを組んでしまうと、実際の生活者のニーズに合わず利用されない可能性があります。</p> <p>私どもの技術を活用していただくことで、実際の住人の方々がどのように移動しているのか、データを把握することが可能となります。平日はショッピングセンターへ移動する方が多いのであれば、シャトルバスをピストン走行することで自家用車が無い方であっても生活の足を確保することができます。週末は車両の稼働率が高いのであれば、あらかじめカーシェアを多めに用意しておく。など実際のデータを得ることでスマートシティのプロジェクトにおいて、生活者が何を求めている、どのようなモビリティサービスを提供すれば良いのかわかるので、プロジェクトの成功確率を高めることができます。</p>	<p>(ア) 交通・モビリティ (オ) 観光・地域活性化 (キ) 生産性向上 (ク) 物流</p>
<p>(3) その他</p>	
<p>▼ スマートシティでのモビリティデータ活用イメージ</p>	
 <p>データインプット → MOBILITY DATA PLATFORM (SmartDrive) → 解析 → 改善 → カルシェア</p>	

▼スマートドライブの提供サービス全体像



▼シガーソケットに挿すだけで走行データの取得ができるIoTデバイス



※(1)(2)について、複数ある場合は項目毎に対応の記載をお願いします。
 ※既に構想中、実施中のプロジェクトがある場合は、別途そのプロジェクト単独での提案も可能です。

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
マーケティング	大里紀雄	090-6013-5774	norio.osato@smartdrive.co.jp